

2023年3月期第3四半期 (FY2022 3Q) 決算概要

2023年2月2日

千代田化工建設株式会社

説明者



代表取締役会長兼社長
榊田 雅和



代表取締役専務執行役員CFO
樽谷 宏志

エンジニアリング
社会の“かなえたい”を共創する



SPERA Hydrogen
Shaping the Future of Energy

Our SDGs Materiality



I 決算概要

II トピックス

III 主要遂行中案件

I 決算概要

CFOの樽谷です。

本日は電話会議にご参加いただき、誠にありがとうございます。

2023年3月期第3四半期決算につき、「決算概要」資料に沿って説明いたします。

1 ハイライト

1. 業績予想の上方修正

手持案件の着実な進捗、新規分野での利益の堅調な積み上がり、および顧客とのリスク分担による採算の改善により、期初の業績予想を引き上げ。

2. 世界的なインフレへの対応

顧客、パートナーと協力して、既存・新規案件への影響を最小化し、収益の安定化とリスクコントロールを強化。

3. 国内事業の基盤強化

本年4月に国内グループ会社3社を統合し、「千代田エクスワンエンジニアリング(株)」を設立。EPCからME*迄をワン・ストップで提供する総合エンジニアリング会社を目指す。

*メンテナンスエンジニアリング



3

I. 決算概要

資料右下3ページ、「1. ハイライト」をご覧ください。

3点説明いたします。

1点目は、一昨日に発表した「通期業績予想の上方修正」についてです。

手持案件の着実な進捗、ライフサイエンス等新規分野の好調、顧客とのリスク分担によるプロジェクト採算の改善等により、期初の業績予想を上方修正しました。

2点目は、世界的なインフレへの対応です。

顧客、パートナーと協力して、既存案件・新規案件への影響を最小化し、収益の安定化とリスクコントロールの強化に取り組んでいます。

3点目は国内事業の基盤強化です。

本年4月に国内グループ子会社3社を統合し、「千代田エクスワンエンジニアリング株式会社」を設立します。EPCからメンテナンスエンジニアリング迄をワン・ストップで提供する総合エンジニアリング会社を目指すものです。後ほど、トピックスで説明いたします。

2 損益計算書

(単位:億円)

	FY2021 3Q	FY2022 3Q	増減	FY2022 通期予想*2	進捗率
完成工事高	2,171	3,085	914	4,500	69%
完成工事総利益	169	235	67	350	67%
完成工事総利益率	7.8%	7.6%	△0.1pt	7.8%	-
販売費・一般管理費	△86	△99	△13	△150	66%
営業利益	83	136	53	200	68%
経常利益	88	156	69	200	78%
純利益*1	△137 ^(注)	125	262	150	84%
為替レート(円/米ドル)	115	133		133	

(注) FY2021 1QにイクシスLNGプロジェクト(完工済み)で特別損失△204億円を計上。

*1 親会社株主に帰属する当期純利益

*2 2023年1月31日に上方修正(期初予想の純利益115億円→150億円)



4

右下4ページ、「2. 損益計算書」をご覧ください。

第3四半期の実績は、表の水色の部分に示しています。
前年同期比で増収、増益となりました。

完成工事高は3,085億円、前年同期比914億円の増収です。

完成工事総利益は235億円、前年同期比67億円増加し、完成工事総利益率は7.6%です。

販売費・一般管理費はやや増加しましたが、営業利益は136億円、経常利益は156億円と大幅増益を記録しました。

純利益は125億円で、期初の通期予想115億円を既に超過達成いたしました。これを受けて、一昨日通期予想を修正しています。表の右から2列目の「FY2022通期予想」は修正後の数値となっています。

完成工事高から営業利益迄は進捗率が70%弱となりますが、第4四半期は海外 大型案件の工事本格化、国内案件の堅調な推移等により、収益ピッチの加速を見込んでいます。

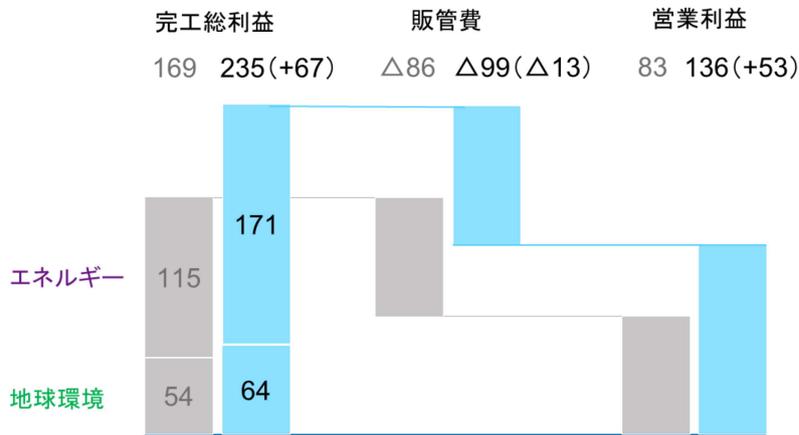
経常利益、純利益は、進捗率が各々78%、83%となっており、修正後通期予想に対しても順調に推移しています。

3 利益増減分析

(単位:億円)

FY2021 3Q

FY2022 3Q



()内: FY2021 3Q比増減

CHIYODA CORPORATION

5

右下5ページ、「3. 利益増減分析」をご覧ください。

完工総利益、販管費、営業利益について、本年度第3四半期と前年同期の実績を対比して示しています。

水色の棒グラフが本年実績、灰色の棒グラフが前年実績です。

完工総利益は前年同期から67億円増加。販管費の伸びを十分にカバーし、営業利益は53億円の増加となっています。

完工総利益の事業分野別内訳は、エネルギー分野171億円、地球環境分野64億円です。両事業分野ともに前年同期比増益を記録しています。

4 バランスシート

(単位:億円)

	FY2021 4Q	FY2022 3Q	増減		FY2021 4Q	FY2022 3Q	増減
流動資産	3,727	3,524	△203	流動負債	3,507	3,372	△135
現金・預金等	688	611	△77	支払手形・工事未払金	961	1,214	253
営業資産*1	590	669	79	契約負債 (未成工事受入金)	1,434	1,391	△44
未収入金	832	379	△453	工事損失引当金	348	341	△7
JV持分資産*2	1,414	1,406	△9	未払金	440	158	△282
その他	217	476	258	固定負債	290	246	△44
固定資産	227	243	16	純資産	158	149	△8
総資産	3,954	3,767	△187	負債・純資産	3,954	3,767	△187
				自己資本	157	148	△8
				自己資本比率	4.0%	3.9%	△0.0pt

*1 営業資産＝受取手形・完成工事未収入金及び契約資産＋未成工事支出金
*2 JV持分資産＝ジョイントベンチャーにおける当社持分に相当する現預金



6

右下6ページ、「4. バランスシート」にお進みください。

大きな動きとして、2点説明します。

表の左下をご覧ください。総資産3,767億円、前年度比187億円の減少となっています。

手持ち案件の進捗に伴い、営業収支を表す勘定として、資産側の営業資産、負債側の支払手形・工事未払が増加しています。

一方、資産側で未収入金、負債側で未払金が大きく減少しています。第1四半期決算でご説明した通り、イクシスLNGプロジェクトでのサブコンとの係争が和解により決着したことによるものです。未収入金の減少幅が相対的に大きいですが、回収資金のかなりの部分が短期運用資金として「その他流動資産」に計上されているためです。

表の右下、自己資本は148億円です。

前年度比で減少となっていますが、これは為替変動に伴い、評価性の項目が変動したことによるものです。その後の為替変動や利益の積み上がりにより、足許では既に200億円台まで回復しています。

5 受注高・受注残高

(単位:億円)

	FY2022 3Q 受注高	FY2022 3Q 受注残高
エネルギー分野	856	9,162
地球環境分野	350	3,633
合計	1,205	12,795

受注残高主要案件	1,000億円以上	50億円以上
エネルギー分野	カタール・NFE LNG 米国・ゴールデンパスLNG	インドネシア・タンゲーLNG
地球環境分野	インドネシア銅製錬	バイオ医薬品原薬製造工場 北豊富変電所蓄電池

右下7ページ、「5. 受注高・受注残高」をご覧ください。

第3四半期の受注高は1,205億円、受注残高は1兆2,795億円を確保しています。

受注残高の主要案件は、エネルギー分野では、カタールNFE LNG、米国ゴールデンパスLNG、インドネシア・タンゲーLNG、地球環境分野では、インドネシア銅製錬、バイオ医薬品原薬製造工場、北豊富変電所蓄電池システムとなっています。

主要案件の遂行状況については後ほど説明します。

完成工事高・受注残高内訳

(単位:億円)

FY2022 3Q 完成工事高

【分野】

エネルギー	2,072	67%
■ LNG・その他ガス関係	1,839	60%
■ 石油・石油化学	233	8%
地球環境	1,013	33%
■ 医薬・生化学・一般化学関係	230	7%
■ 環境・新エネルギー・インフラ他	783	25%
合計	3,085	100%

【地域】

海外	2,503	81%
■ 中近東・アフリカ	1,107	36%
■ 北中南米	452	15%
■ アジア・オセアニア	944	31%
■ その他海外	0	0%
■ 国内	582	19%
合計	3,085	100%

FY2022 3Q 受注残高

【分野】

エネルギー	9,162	72%
■ LNG・その他ガス関係	8,847	69%
■ 石油・石油化学	315	2%
地球環境	3,633	28%
■ 医薬・生化学・一般化学関係	421	3%
■ 環境・新エネルギー・インフラ他	3,213	25%
合計	12,795	100%

【地域】

海外	11,800	92%
■ 中近東・アフリカ	7,223	57%
■ 北中南米	1,264	10%
■ アジア・オセアニア	3,312	26%
■ その他海外	0	0%
■ 国内	995	8%
合計	12,795	100%

次のスライド、右下8ページは付表です。

完成工事高、受注残高の分野別、地域別の内訳を掲載しています。

この場での説明は割愛させていただきます。

後ほど、ご覧いただければと思います。

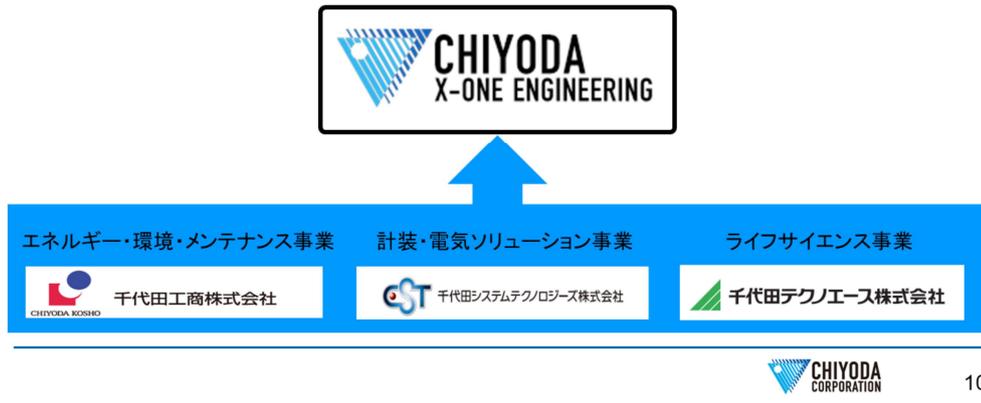
Ⅱ トピックス

続きまして、9ページからは、「トピックス」を紹介します。

1 国内事業強化

千代田エクスワンエンジニアリング設立

- 本年4月に国内グループ会社3社を合併し、国内有数の総合エンジニアリング会社となる「千代田エクスワンエンジニアリング株式会社(英文名: CHIYODA X-ONE Engineering Corporation)」を設立
- EPCからオペレーション&メンテナンスエンジニアリングまで、ワン・ストップ・サービスを提供することで当社グループの国内事業を強化



右下10ページ、「1.国内事業強化」をご覧ください。

ハイライトでご説明したとおり、当社の国内グループ子会社3社を統合し、「千代田エクスワンエンジニアリング株式会社」を本年4月に設立します。

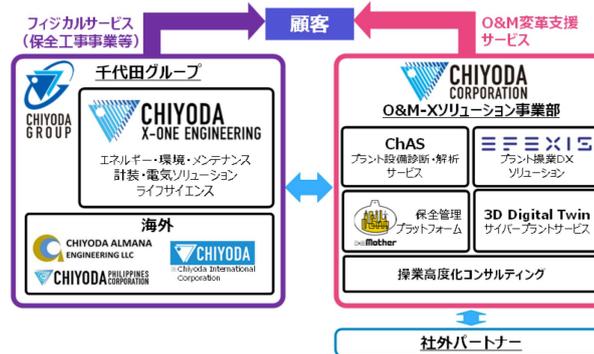
会社名の「エクスワン」とは、トランスフォーメーションを意味する「エックス」と、プロジェクト遂行力のドライバーである“ワンチーム”の「ワン」を加えた造語で、「千代田の技術を活かしワンチームとなってトランスフォーメーションに臨む」ということを表しています。

合併後、3社の持つ「エネルギー・環境・メンテナンス事業」「計装・電気ソリューション事業」「ライフサイエンス事業」を統合し、国内有数の総合エンジニアリング会社として、EPCからオペレーション&メンテナンスエンジニアリング迄ワン・ストップ・サービスを提供することで、国内事業を一段と強化します。

2 O&M-Xソリューション事業

顧客プラント運転・保全(O&M)の変革(X)事業が始動

- 高度設備診断・解析技術、保安全管理支援等ソリューションとEFEXIS^{®1}、O&M Mother^{®2}などのデジタルソリューションを集約、新事業部設立。
- 本年4月に新設する「千代田エクスワンエンジニアリング(株)」をはじめグループ企業と連携し、顧客のプラント運転・保守業務の変革をサイバーとフィジカルの両面で支援するソリューション提供を拡大・加速、O&Mビジネスを拡充していく。



¹ プラント操業最適化を実現する革新的デジタルソリューションのブランド名称

² プラントの高度診断・解析技術と最新のIoT・クラウド技術を融合したプラントのO&Mソリューション

右下、11ページ、「2. O&M-Xソリューション事業」をご覧ください。

当社の強みである、プラントの高度設備診断・解析技術、保安全管理支援などの 運転・保守ソリューションと、操業の最適化を実現するデジタルソリューションを 集約し、O&M-Xソリューション事業を立ち上げました。

先ほどご紹介した千代田エクスワンエンジニアリングをはじめとする国内外のグループ各社と連携し、お客様のプラント運転・プラント保全にかかわる業務の変革をサイバーとフィジカル両面から支援するソリューション・ビジネスを拡大・加速していきます。

3 デジタルトランスフォーメーション(DX)

全社DX加速の取り組みが進展

■DX認定業者

- 12月に経済産業省より、「DX認定事業者」としての認定を取得。
- グループ一丸となりギアを上げてDX加速に取り組む。

■デジタル変革ビジネス(DX事業)

- 太陽石油(株)四国事業所で導入されたEFEXIS®FCC最適運転AIシステムでRFCC装置の触媒反応の最適化により、生産計画に沿った生産を達成。
- デジタル技術を活用したスマートファクトリー構想を支援、熟練オペレーターの知見継承にも貢献。



FCC最適運転AIシステム
を使用している様子



RFCC(残渣流動
接触分解)装置

右下、12ページ、「3. デジタルトランスフォーメーション(DX)」をご覧ください。

当社は、昨年12月1日に、経済産業省より「DX認定事業者」としての認定を取得しました。今後、全社DXの取り組みをさらに加速していきます。

デジタル変革ビジネスは、プラント操業の最適化を実現するデジタルソリューション事業を「EFEXIS」ブランド名で展開しています。このラインアップの一つであるFCC最適運転AIシステムが、太陽石油株式会社四国事業所で導入されており、RFCC装置の触媒反応の最適化により、生産計画に則した生産達成に寄与しています。顧客のスマートファクトリー構想を支援するとともに、熟練オペレーターの知見継承にも貢献するものです。

4 ライフサイエンス事業

ワクチン原薬製造設備 完工

- 塩野義製薬(株)向けワクチン原薬製造設備建設工事完工、2023年1月引き渡し。



ワクチン原薬製造設備外観

右下、13ページ、「4. ライフサイエンス事業」をご覧ください。

塩野義製薬株式会社向け、ワクチン原薬製造設備の工事が完工し、本年1月に引き渡しを行いました。

この設備は、遺伝子組み換えタンパク質によるワクチン原薬の商用生産体制を構築するものです。

当社は、他にバイオ医薬品の原薬製造工場に関わるEPC業務も手掛けています。こうした実績を礎にして、再生医療分野といった次世代医薬品、バイオインダストリーへの業務展開を目指していきます。

5 水素事業～SPERA水素™～

欧州でのMCHによる「水素ハイウェイ」への参画

- 水素キャリアに関する事前調査で総合評価が最も高いLOHC-MCH*を水素キャリアにした、大規模輸出の実装に向けたパイロットプロジェクトの開発・組成を目的とする事業化調査。
- Net Zero Technology Center をプロジェクトコーディネーターとして、スコットランド政府、港湾公社など10企業・政府機関で構成される国際コンソーシアムが推進。
- 2045年迄に25GWの再エネ由来及び低炭素な水素の生産に取り組むスコットランドと欧州の水素ハブ港となる目標を掲げるロッテルダム港を接続。



* LOHC: Liquid Organic Hydrogen Carrierの略、液体有機水素キャリア。

MCH: メチルシクロヘキサン。トルエンと水素の化学反応で生成、常温・常圧で液体。化学的に安定、取り扱いが容易な物質。医薬品、農業製造の溶剤、ジェット燃料の混合剤、修正液の溶剤などで幅広く使用。

CHIYODA CORPORATION

14

続いて、14ページ・15ページで、「水素事業」の進展をご紹介します。

1点目は14ページの「欧州での水素ハイウェイへの参画」です。

スコットランドから、欧州の水素ハブ港を目指すオランダ・ロッテルダム港への、大規模輸出の実装に向けた、パイロットプロジェクトの開発・組成に関わる事業化調査を実施しています。

水素先進地域である欧州では、かねてご案内の通り、ロッテルダム港湾公社、三菱商事等と共に、「商業規模の水素輸入による国際間水素サプライチェーン構築」に関する検討も進めています。

6 水素事業～SPERA水素™～

フランスAxens社との戦略的商業協力

- LOHC-MCHIによる水素サプライチェーンに関する商業協力契約を締結。
- Axens社のトルエン水素化技術と当社のSPERA水素(MCH脱水素)技術を組み合わせることで、水素化・脱水素の技術間調整にかかる顧客負担を軽減、プロジェクト早期実現のアプローチを提供する。
- 欧州市場を中心に、日本、北米、アジア、オセアニアなどにおける水素案件に、共同で売り込みを図り、水素サプライチェーン構築を加速する。

Axens社-千代田 ライセンスコマーシャルパッケージ

Axens
Powering integrated solutions

- トルエン水素化技術
最適化されたエネルギー効率で、トルエンと水素から高純度のMCHを製造
- ライセンサーとしての専門性



CHIYODA CORPORATION

- SPERA水素(MCH脱水素)技術
MCHから水素とトルエンを高い転化率と選択率で製造
- エンジニアリングの知見

CHIYODA CORPORATION

15

水素事業の2点目は、15ページ「フランス・アクセンス社との水素サプライチェーンに関する戦略的商業協力契約の締結」です。

アクセンス社が持つトルエン水素化技術と、当社の独自技術であるSPERA水素 技術、即ち、MCH脱水素技術を組み合わせ、プロジェクトの早期実現をサポートし、水素サプライチェーン構築を加速していきます。

7 低炭素・カーボンリサイクルの取り組み

タイにおける脱炭素の共同技術検討の覚書を締結

- タイの独立発電事業者BLCP パワー社、三菱商事と、BLCP パワー社の運営する石炭火力発電所でのCCUS^{*1}の技術検証・経済性評価を実施する。
- 当社は、独自のCO₂リフォーミング技術^{*2}の知見等を活かして技術サポートを行う。
- 日本政府が掲げるアジア・ゼロエミッション共同体構想で重要国と位置付けられているタイにおけるCCUS実装への貢献と他の火力発電所への横展開を目指す。



1月12日開催「日本・タイエネルギー政策対話」での覚書署名式の様子

^{*1} Carbon Capture, Usage and Storageの略、CO₂の分離・回収・有効利用・貯蔵

^{*2} CO₂を原料にして天然ガスから合成ガスを高効率に製造、排出炭酸ガスを大幅に削減する環境調和型技術

右下16ページ「7. 低炭素・カーボンリサイクルの取り組み」をご覧ください。

タイの独立発電事業者であるBLCPパワー社、並びに、三菱商事と、「脱炭素技術の検討に関する覚書」を締結しました。

BLCP パワー社の運営する、石炭火力発電所におけるCCUSの技術検討・経済性評価において、当社独自の環境調和型技術であるCO₂リフォーミング技術の知見を活かし、技術サポートを行なっています。

日本政府が掲げるアジア・ゼロエミッション共同体構想の中で、重要国と位置付けられているタイにおいて、他の火力発電所への横展開も目指していきます。

Ⅲ 主要遂行中案件

最後に、右下17ページ以降で、「主要遂行中案件」についてご説明します。

1 カタールNFE LNG（エネルギー分野）

【特徴】

- 年産800万トン x 4系列の超大型プロジェクト
- 既存LNGプラント比25%以上のCO₂排出量を削減

顧客	QatarEnergy
パートナー	Technip Energies
納期	2025年～2027年
遂行状況	設計・調達を遂行、本設プラントの土木工事が本格化。

プラント完成予想3Dモデル



Ⅲ. 主要遂行中案件

右下18ページは、エネルギー分野の「カタールNFE LNGプロジェクト」です。

本設プラントの土木工事を中心として遂行中です。

2 インドネシア銅製錬（地球環境分野）

【特徴】

- 銅は脱炭素社会の主要素材、今後の需要拡大
- 単一ラインとして世界最大規模の生産能力
- IFC*の基準に準拠した高い環境対策を実現

顧客	P.T. Freeport Indonesia
納期	2024年
遂行状況	設計・調達遂行中。 建設工事が本格化。



*International Finance Corp.



19

続く19ページは、地球環境分野の「インドネシア銅製錬プロジェクト」です。

建設工事が本格化しています。

3 その他の主な遂行中案件

案件	インドネシア・タンゲーLNG	米国・ゴールデンパスLNG
顧客	BP Berau Ltd.	Golden Pass Products, LLC (QatarEnergyとExxonMobilのJV)
パートナー	Saipem, Tripatra	Zachry, McDermott
納期	2023年 RFSU(Ready for Start-up)	2024年～2025年 (3系列)
遂行状況	建設工事終盤、完工に向けて遂行中。	建設工事が本格化し進捗中。



最後に、右下20ページでは「その他の主な遂行中案件」を掲載しています。

インドネシア・タンゲーLNGでは本年の完工を目指して建設工事の最終盤にあり、米国・ゴールデンパスLNGも、写真でご覧いただけるとおり、建設工事が本格化しています。

以上で、決算概要の説明を終わらせていただきます。

Energy and Environment in Harmony



千代田化工建設株式会社 総務部IR・広報・サステナビリティ推進セクション <https://www.chiyodacorp.com/jp/>

この資料には、事業戦略・本資料発表時における将来に関する見通しおよび計画に基づく予測が含まれています。経済情勢の変動等に伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があり、予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。従いまして、この業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。

© Chiyoda Corporation 2023, All Rights Reserved.

21